

【事業実績】

「地域資源を活用した体感型人材育成事業」

1. 教育委員会及びこども未来課とのネットワーク事業

美術館から幼稚園・こども園・小学校・中学校・高等学校へ出向いて行うワークショップ/体感型・工作型・鑑賞型・絵の具ワークショップ・アーティストトーク(レクチャー)を行った。また学校で行うワークショップと美術館での鑑賞を君合わせた往還型ワークショップ(びじゅつかんの旅・旅じたく)を行った。

(1) 学校・施設往還型ワークショップ&レクチャー
(アーティスト招聘による)

「金属は熔ける」講師:高橋賢悟(美術家) 14名



(2) 学校・学校・施設往還型ワークショップ(美術館による)

びじゅつかんの旅じたく 9回/184名
びじゅつかんの旅 14回/236名



(3) 学校施設へアウトリーチ(アーティスト招聘による)
レクチャー/アーティストとの出会い「フォトグラファー 撮影の現場から」
講師:SAI(写真家) 72名



(4) 学校施設へアウトリーチ(美術館による)

出前ワークショップ:43回/949名



(5) 教員研修ワークショップ(美術館による)

19回/173名



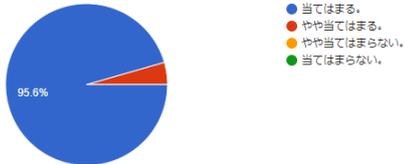
(6) 学校・美術館を劇場化する

3回/68名



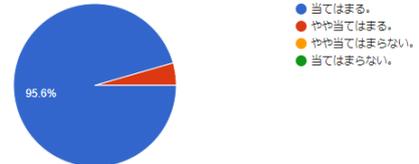
質問1 スクールプログラムは子どもたちが楽しめる内容だった。

45件の回答



質問2 スクールプログラムは教師自身が楽しめる内容だった。

45件の回答

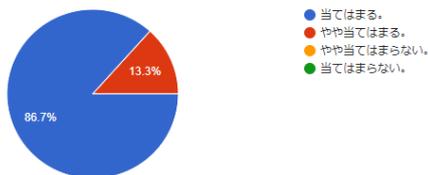


子どもたちにとってのスクールプログラム 「子どもたちにとって世界観に入り込みやすく、あそびの広がりを楽しんでいた」「不器用、活動の切り替えの難しい子どもも飽きずに遊びに集中していた」「ワークショップ後、紙からできるものを想像して子どもたち同士で楽しく話している姿を見かける」「美術品に実際に触れることができ、視覚だけではなく、質感や量感なども体験することができた」「子どもたちがいきいきとした表情を見せ、積極的に活動に参加していた」「風、空気、膨らむ、友だちと息を合わせる等々のどれもが子どもたちの五感を刺激しているように感じた」

先生にとってのスクールプログラム 「日常のあそびの中に美術があると考えさせていただけた」「教師自身もワクワクできた」「参考になる活動ばかりで、自分の授業に取り入れたい」「職員もつい真剣に取り組んでしまう内容」「芸術への関心を広める機会となった」「全身で楽しめた」

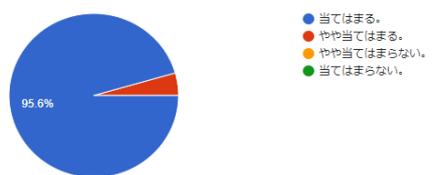
質問3 スクールプログラムは今後の指導の参考となった。

45件の回答



質問6 来年度もスクールプログラムを活用したい。

45件の回答



今後の参考になったこと 「普段の保育の中にも美術的な要素がいっぱいあることを知れた」「子どもたちの興味が継続するよう工夫しているのが参考になった」「苦手意識がある子どもたちが遊ぶことを通して表現に入り込むプロセスが参考になった」「言葉がけや活動に対する姿勢など学ぶものが多かった」

